

《その他》

「RKUスポーツ健康科学部地域スポーツ研究会」 に関する活動報告

鈴木 麻里子, 上野 裕一, 松田 哲, 柴田 一浩

The report of 'the Society for Community Sports'
in the Department of Health & Sport Sciences

Mariko SUZUKI, Yuichi UENO, Tetsu MATSUDA, Kazuhiro SHIBATA

キーワード：課外活動, キャリア教育, 地域スポーツ

Key Words: Extracurricular Activities, Career Education, Community Sports

1. 発足までの経緯

平成18年度に本学部が設立して以来、5年が経過しようとしている。その過程において、1つの課題が明確になった。本学部では学校体育や地域スポーツでの指導者の養成を主たる目標として運営を行ってきた。しかしながら、初めての卒業生である1期生の就職先は、ほとんどが一般職であり、スポーツに関する専門職へと就業する割合が予想に反して少なかったという現状に直面した。さまざまな要因が考えられるが、その1つとして「スポーツ健康科学」という学問へ対する学生の興味関心の低さがあると考えられる。

まずは当然のことながら、カリキュラム・授業内容の見直しと改善が図られたわけだが、その一方で所属学生の課外活動参加を奨励するという取り組みを開始した。

本学部では、スポーツを扱う学部であるにも関わらず、スポーツ系課外活動に所属する割合が少ないという現状がある。言うまでもなく、スポーツ系課外活動で得られる経験は、学部教育で培ったものを補って余りあるものである。その重要性を考慮すると、課外活動の充実を図る必要がある。

さらに、本学部においては教育職を希望する学生も多く、将来的なキャリアを展望すると課外活動において指導力を鍛え、組織を運営する実践の場が必要である。しかし、既存の部活動・サークルにおいては、そういった教職をはじめ、指導者としてキャリアを積みたいと考えている学生のニーズへの対応が難しい。

これらの現状から、学生の学習への意欲喚起と、キャリア形成のための実践・実習の場を設定することが急務であった。これらのことから、この度「地域スポーツ研究会」および「体育指

導研究会」を発足させるに至った次第である。

発足にさきがけ、学部 に在籍する学生を対象に、課外活動実態調査を行った。その結果、次のような傾向が把握できた。

まず、高校での課外活動では、圧倒的に運動部に所属していた者が多い(表1)。しかしながら大学入学後に部活動等に参加する学生はその約7割にまで減少している(表2)。参加しない理由としては、「参加したい課外活動が見つからない」が多く、次いで「参加したいが、経済的・家庭的事情により参加ができない」となっている。

表1 高校での課外活動

高校所属部	人数 (n=331)
運動部	310
文化部	2
学外サークル等	5
していない	13
その他	1

このような実態から見えてくることは、大学入学後の正規授業以外において活動することに意義を見いだせていない学生が多数存在しているということである。本学部では、学部の特性も考慮すると課外活動を推進する必要がある。学部学生の課外活動参加は必須であり、参加率100%であることが望ましい。将来的には学部学生が何らかの課外活動を自主的に行っているという目標も設定した。

本報告は、このような経緯から発足した「地域スポーツ研究会」と「体育指導研究会」について、特に「地域スポーツ研究会」の活動をまとめたものである。

表2 大学での課外活動参加状況

参加状況	人数 (n=331)
参加している	247
参加していない	64
以前参加していたが、今は参加していない	19
無回答	1

2. 実践内容

1) メンバー募集と活動計画

学生に対する研究会発足の周知と募集については、5月27日のゼミの時間と昼休みを活用した。活動内容としては、スポーツイベントを企画し、実践していくことを説明し、特に専念する課外活動がない学生にこそ興味を持って参加してほしいという内容を伝えた。

その結果20人近い参加希望者があり、3年生を軸に活動を展開することを確認した。さらに、月曜日の夕方と木曜日の昼休みをメンバー全員が集合して行うミーティングの日と決め、定期的に活動を実施していくことを決定した。

イベント企画開催までの流れは、定期的なミーティングを活動の中心におき、学生同士の活発な意見交換によって、イベントを企画していく。イベント内容と開催時期が決定次第、会場設定、広報活動、当日の役割分担などの計画を立てるという一連の運営の方法が形作られてきた。

2) 実施イベントと活動報告

【水鉄砲・水風船大会】

2010年7月31日(土)10時~12時

場所:流通経済大学サッカー場

対象:小学校2年生~小学校4年生

目的:子供たちに楽しく競技に参加させること

を通して、ルールの大切さを学び、また他学年や地域の小学生、流通経済大学学生交流することで協調性を育み、コミュニケーションを深める。

事前の広報活動は、市内の小学校3校に案内状の配布を依頼した。当日の参加者は34人であった。参加児童を4組のグループに分け、2組ずつ10分間の対戦の方式で、勝敗は、半紙で作成したタスキが水分で切れた時点で、「敗者」となり、最終的にタスキをかけた「勝者」が多いほうが「勝ち」となる。

各児童のグループに学生もそれぞれ参加し、ともに競技を楽しむ「参加型」イベントであった。

【かけっこ指導「徒競争で1番になる方法」】

2010年8月12日（木）、19日（木）、26日（木）

午前9時半～午前11時半

場所：流通経済大学広瀬グラウンド

対象：近隣の小学生全学年

目的：教職を希望する学生にとって、実際に児童生徒にスポーツを指導する機会は重要である。短距離走の基本である「かけっこ」を指導することを通して、指導力の育成と子どもたちとのコミュニケーション力を高めることを目的とした。

夏休み中であるため、十分な広報活動ができなかったことが不安材料となったが、龍ヶ崎市内のコミュニティーセンター、地域のスーパーマーケット、市役所にポスター掲示に協力を依頼し、これらを通して毎回15人前後の児童の参加があった。

指導の内容は、本学非常勤講師である筒井健裕氏の指導のもと、児童の走法から、それぞれを「ストライド型」と「ピッチ型」に分類する

ことから始める。ストライド型には回転を速くするトレーニングを、ピッチ型には歩幅を大きくするトレーニングの手法をそれぞれ指導する。

全3回の指導内容は、次の表3の通りである。

表3 「徒競争で1番になる方法」プログラム

日時	内容
第1日目(12日)	①自己紹介（コミュニケーション） ②初回計測と「ストライド型」「ピッチ型」に分類 ③「ストライド型」「ピッチ型」に分け、練習法指導 ④鬼ごっこ
第2日目(19日)	①前回の復習 ②「ストライド型」「ピッチ型」練習法応用編指導 ③鬼ごっこ
第3日目(26日)	①前回の復習 ②最終計測 ③リレー

【親子運動会「スポ健大運動会」】

2010年10月24日 午前10時～午後3時

場所：たつのごアリーナ

対象：龍ヶ崎市内小学生全学年

目的：スポーツレクリエーションを計画し、実践することで、学生には将来保健体育教師として必要なスキルを取得する機会とする。また同時に「親子の絆」というテーマを設定し、親子のコミュニケーションをはじめとし、市内の各小学校間、地域の子どもたちとの交流を図ることに、誰もが健康で楽しめる生涯スポーツ社会の実現を目的とした運動会とした。

龍ヶ崎市内各小学校の児童とその保護者計139名の参加と、本学学生34名、教員7名が出席し、以下のプログラムを実施した。

①50m走（1、2年生）

- ②80m走（3，4年生）
- ③100m走（5，6年生）
- ④障害物競争（保護者希望者）
- ⑤大ムカデ（5，6年生）
- ⑥玉入れ（1，2年生とその保護者）
- ⑦学校別対抗保護者リレー（保護者希望者）
- ⑧ドラコロ体操
- ⑨大縄跳び（全学年）
- ⑩親子二人三脚（全学年希望者）
- ⑪大玉ころがし（3，4年生とその保護者）
- ⑫リレー（全学年）

会場のキャパシティの大きさ及びプログラムのボリュームから、本研究会のスタッフだけで運営することは非常に困難であったため、この企画に関しては、多方面からの協力を得た。まず、龍ヶ崎市教育委員会の後援を得て、龍流連携事業とした。さらに本学陸上部、コーディネーションチーム、松田哲先生の1年生ゼミなどに応援を依頼し、20名程度に協力をお願いした。

しかしながら、いたるところで準備不足が目立った。たとえば各競技で使用する道具を近隣の小学校・中学校から借用したのだが、普段扱うことのない教材・教具であるため、学生たちの取り扱いに戸惑いが見られた。これによって競技に支障をきたすという事態も発生した。そのほかにも事前に準備はしていたものの、当日には予想外のことも頻発し、対応に追われる場面も続出した。結果的には準備不足であったとしか言いようがないのであるが、これも次年度に続けるためのよい材料としていきたい。

【クリスマスダンスパーティ】

2010年12月19日（日） 午後1時～5時半
場所：流通経済大学体育館

対象：地域住民・大学関係者

目的：これまで企画したスポーツイベントは、いずれも児童を対象としてのものであった。研究会の趣旨からすると、対象を限定したイベントだけではなく、どの年代にも適したイベントを企画する必要がある。そこで、対象年齢を限定しないダンスパーティを開催することとした。このレクリエーションを通して、大学と地域との交流を図るとともに、学生はスポーツマネジメントの実践の場として、また地域住民には生涯スポーツの場としての機会を提供することを目的とする。

パーティにさきがけ、ダンスに不安のある人にも気軽に参加してもらえるよう、初心者ダンスレッスンも企画した。茨城県南ダンススポーツ連盟の全面的な協力を得て、地域のダンス愛好者への広報活動と、当日のダンスデモンストラクションを担当していただいた。

当日は、約230人の参加があり、ほとんどが地域の方々であった。

予想をはるかに超える多勢の方に参加いただいたが、その参加者の多くから「次回もぜひ企画してほしい」という意見をいただいた。地域と大学を結ぶスポーツイベントとして来年度以降も継続して実践していきたい活動のひとつである。

3. 反省点と今後の課題

今年度発足し、まさにゼロからの出発であったという現状を考慮すれば、今年度4回のスポーツイベントを企画し実践できたことは非常に有意義であった。学生たちにとっても、すべてが初めての経験であり、試行錯誤をしながら

の企画運営は刺激になっていた。

しかし、今年度でこの組織運営の基盤が盤石になったとは到底言えず、まだ軌道修正や補強が必要であることは言うまでもない。組織内におけるリーダーの養成とフォロアーの在り方に始まり、増員と後輩指導、スタッフ同士でのスムーズな連絡手段、各関係者との連携の充実など、挙げればきりが無いほどである。これらのことは次年度以降も引き続き指導を要することであり、長期的な発展・展開を視野に入れながら今後も多方面の協力を得ながら継続・実践し

ていく必要がある。

最後に、今年度本研究会の学生リーダーとして活動した3年生の加藤浩幸君の感想を紹介してまとめたい。

「活動は楽しかったが、リーダーとしてスタッフを動かすという部分が非常に難しい。これができればイベントそのものさらによいものになっていただろう。自分自身がリーダーシップを発揮できていたか、反省するばかりであるが、このような経験ができたことにまずは感謝したい。」